

( 1 ) 本時の目標 具体物を実際に分けることで、式での表し方の理解を定着させる。

( 2 ) 展開

時		学習過程	指導上の留意点
3	問題の提示	<p>1 . 課題を把握する。</p> <p>T : これから、「猛獣狩りに行こうよのゲームをします。」</p> <p>みなさんは、何人いますか。</p> <p>C : 1 4 人</p> <p>T : わかりました。では、始めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最初に分ける人数(わられる数)を確認する。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>1 4 人で猛獣狩りに行こうよのゲームをしよう。</p> </div>			
10	問題の解決	<p>2 . 猛獣狩りに行こうよのゲームをする。 ( 2 人ずつにわかれる。)</p> <p>T : どうなった?</p> <p>C : 7 グループできたよ。</p> <p>T : だれも食べられていないね。</p> <p>T : 次は、4 人ずつに分かれよう。 ( 4 人ずつ分かれる )</p> <p>T : どうなった?</p> <p>C : 3 グループできた。でも入れなかった人もいるよ。</p> <p>C : 3 グループできた。でも 2 人食べられた。</p> <p>T : そうだね、1 4 人を 4 人ずつに分けたら、3 グループと 2 人あまったね。</p> <p>( 1 4 ÷ 5、1 4 ÷ 6、1 4 ÷ 3、をやってみる )</p> <p>T : では、7 人ずつに分かれよう。 ( 1 4 ÷ 7 をやってみる )</p> <p>T : どうなりましたか。</p> <p>C : 2 グループできた。だれもあまってないよ。</p> <p>T : うまくわかれられたね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最初は復習もかね、わりきれぬ数 ( 1 4 ÷ 2 ) を提示する。</li> <li>・何グループ(商)を確認する。</li> <li>・あまりのないことを確認する。</li> <li>・あまりのある場合 ( 1 4 ÷ 4 ) を扱う。</li> <li>・あまりに着目させる。</li> <li>・順番に板書しておく。 ( 2 人ずつに分かれたとき、7 グループできて誰も食べられなかった。 ) ( 4 人ずつに分かれたとき、3 グループできて 2 人食べられた。 )</li> <li>・あまりの使われる場面について意識させる。</li> <li>・いろいろな場面を体験させる。</li> <li>・あまりなしを意識させる。</li> </ul>

		<p>T：今度は、先生も入っちゃおう。15人でやってみよう。(4人ずつに分かれる) (<math>15 \div 3</math>、<math>15 \div 5</math>、<math>15 \div 6</math>、<math>15 \div 7</math>)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人数が15人になったことを確認する。</li> <li>・いろいろな場面を体験させる。</li> <li>・この結果も板書しておく。</li> </ul>
2	問題の提示	<p>3. 問題の提示し計画を立てる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <p>猛獣狩りに行こうよのゲームの結果を式に表そう。</p> </div> <p>T：猛獣狩りの結果を、式に表せないか考えてみよう。</p>	
3	解決の計画	<p>T：まずは、整理して見るよ。 C：できそうだ。 C：3人ずつ分かれたから、3でわったんだな。 C：グループの数は、答えだ。 C：食べられちゃう人があまりだな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・板書を振りかえる。</li> </ul>
12	計画の実行	<p>4. 自力解決する。 C：14人を2つに分けたから、<math>14 \div 2 = 7</math>グループできたから、答えは7 C：14人を4つに分けたから、<math>14 \div 4 = 3</math>グループできて、2人残ったから、<math>14 \div 4 = 3</math>あまり2だ。 C：15人の時は、<math>15 \div 4 = 3</math>あまり2だ。 C：手が見つからない。</p>	<p> <math>14 \div 2 = 7</math>                      <math>15 \div 4 = 3</math>あまり3  <math>14 \div 4 = 3</math>あまり2      <math>15 \div 3 = 5</math>  <math>14 \div 6 = 2</math>あまり2      <math>15 \div 6 = 2</math>あまり3  <math>14 \div 5 = 2</math>あまり4      <math>15 \div 5 = 3</math>  <math>14 \div 3 = 4</math>あまり2      <math>15 \div 7 = 2</math>あまり1  <math>14 \div 7 = 2</math>                      <math>15 \div 2 = 7</math>あまり1 </p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手が見つからない児童には、アレイ図やおはじきを使い体験を振りかえさせる。</li> <li>・はやく終わった児童には、この式を整理し気がついたことはないか、考えさせる。</li> <li>(表) 体験したことを式で表すことができたか。</li> </ul>
5	練習上げ	<p>5. 発表する。 T：では、どんな式になったか発表しましょう。 C：それぞれの式を発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・うまく式に結びつけられない児童がいる際には、再度体験させ、確認する。</li> <li>・発展課題に取り組んだ児童がいれば、発表させる。</li> </ul>

5	ま と め	<p>6.まとめをする。</p> <p>T:最後にもう一度やってみよう。今度は式を意識してね。</p> <p>(16人を5人ずつに分ける。)</p> <p>T:式で表すと?</p> <p>C: <math>16 \div 5</math></p> <p>T:答えは?</p> <p>C: 3あまり1だ。</p> <p>C: 猛獣狩りに行こうよは、あまりをだすゲームだったんだ。</p> <p>T:あまりは、いろいろなところで使われているね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験と式とを結びつける。</li> <li>・時間があれば、余りの使われる場面について話し合う。</li> <li>・学習カードを記入させる。</li> </ul>
---	-------------	--	--

(3) 評価 具体物を実際に分けることで、式での表し方を理解できたか。